

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 3 年次生 松崎 晴佳

1. はじめに

私は、2019 年 8 月 2 日から 8 月 25 日までの 3 週間、アイルランドで語学短期留学をしました。滞在中はホームステイを行い、平日の午前中は、語学学校である The Emerald cultural Institute で語学の勉強をし、午後は観光したりして、アイルランドについての見聞を広めました。

2. 語学学校にて

ダブリン中心地から少し離れた The Emerald cultural Institute で学びました。メイン校舎はヴィクトリア調の美しい建物で廊下や室内の装飾も美しく、マルチメディアルーム、キャンティーンなど、設備が整っているため勉学に励むには最高の環境だと思いました。常にスタッフや教師陣が学生ひとりひとりへの配慮を心がけておられ、困っているときには積極的に助けてくださいました。一年を通して 400 人以上の学生が在籍し、また、クラスも 40 前後設置されていたため、学生一人一人のレベルに合ったクラスに所属することができました。1つのクラスに所属する同じ国籍の学生も少なく、母国語に頼ることなく過ごすことができました。

初日に行われた簡単なテストと面接によりクラスのひとつに振分けられました。授業は平日 9 時から 13 時 20 分までありました。日本で学ぶのと同じく、現在形、現在進行形、過去形、過去進行形…と教科書に従って学びました。驚いたことに、基礎的な文法の授業でさえグループワークが中心でした。文法は一人でコツコツするものという思い込みが払拭され、ただ覚えるだけではなくしっかりと理論を学びました。先生方が私のわからない点に根気強くつきあってくくださったおかげで、質問することへの抵抗や気恥ずかしさも次第に感じなくなり、積極的に学ぶことができたと思います。クラスにはブラジル、イタリア、メキシコ、チェコ、韓国、サウジアラビアなど様々な国籍の生徒が在籍しており、それぞれの国の人々からたくさんの刺激を受けながら英語を学ぶことが出来たのも大変良かったと思います。



クラスメイトとともに

3. ホームステイ

語学学校から30分、ダブリンシティから1時間ほどにある閑静な住宅地の中の一軒でした。リタイアされたホストファザーと、現役看護師のホストマザー、ブラジル人と韓国人のホストシスターが1人ずついました。とてものんびりとした家庭であり、夕食はみんなでワイワイしながらとることが出来ました。時には3時間近く喋り続けていることもあり、英語力向上の助けとなりました。

4. 観光

午後からの自由時間を利用して市内中心部を歩いたり、バスで移動するだけでも様々な歴史的建造物に出会うことが出来ました。ダブリン城、トリニティ・カレッジ(ダブリン大学)、セントパトリック大聖堂をはじめとして、様々な場所を巡ることでアイルランドの文化に触れました。

また、週末は足を伸ばしてロンドン(イギリス)、ベルファスト(北アイルランド)に行ったりと、とても充実した毎日を送りました。



トリニティ・カレッジ(図書館)

5. 終わりに

海外に 1 人で留学に行くとした時は漠然とした不安の方が大きかったですが、とてもかけがえのない思い出になりました。その中でも 1 番強く印象に残っているのは「人種や国籍などに縛られている自分自身がいた」ということに気づけたことです。もちろん個人の生きてきた背景を尊重するのは大切ですが、それをステレオタイプ化して全ての個人に当てはめようとするのは傲慢だということです。出会う人それぞれを集団の一人として捉えるのではなく、個人として接することの大切さを学びました。また、母国語が異なるため、英語の発音にも「なまり」が当然出てきます。しかし、これは何ら悪いことではなく、それよりも失敗を恐れて黙って居ることのほうが問題でした。ホストファミリーが教えてくれた “Don’ t worry. Don’ t be shy.” を念頭にこれからも過ごしていきたいです。他にも書ききれないほどの気づきがあり、英語力だけでなく、人としても少し成長出来たように思います。これらを忘れず将来にわたって活かしていきたいです。

最後に、私の留学に関わって下さった全ての方に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。



バッキンガム宮殿前(ヴィクトリア記念碑)



タイタニック記念館